デザイン分野　　３年　　組　　番　氏名

TOKYO2020 グッズデザイナーに挑戦　―タンブラー制作―

近年、日本に訪れる外国人観光客は増加しており、日本の文化や良さが海外の人に多く知られる機会が増えています。ＴＯＫＹＯ２０２０では大会関参加、運営、観戦をするために多くの人たちが日本を訪れることとなります。そうした人々に向けて、オリンピック組織委員会や東京都や埼玉県などの開催地、企業など様々なところで企画運営が行われています。その中には「日本」の良さを見直したり、アピールしたりする動きがあり、オフィシャルグッズなどの商品となって販売されているものもあります。私たちもＴＯＫＹＯ２０２０グッズデザインの授業を通して今住む国、「日本」の文化や良さを発信してみましょう。

オフィシャルグッズとは・・・
大会マークや大会マスコットなどその年の大会を表す要素を取り入れた、組織委員会や IOC・IPC の許可を得たグッズのことである。なお、開催国の文化を取り入れたものも多い。オフィシャルグッズの役割は、大会の宣伝や応援のムードの高揚、収益による経済効果や組織運営など。

〈目標〉関　条件や背景を活かしつつ、デザインに積極的に取り入れようとする。
発　テーマに適した色彩や構成を選び、魅力的なデザインを考える。
技　素材の色や形を生かしてテーマを表現する工夫を行う。
鑑　他の作品の伝えたいことを考えながら鑑賞する。

制作するのはこれだ！
タンブラー

お気に入りのドリンクを入れて楽しむためのもの。様々なデザインや期間限定・ご当地限定のものもある。コーヒーショップなどではマイタンブラー持参で割引になることも。

１．タンブラーの条件を確認しよう

① 和（日本の伝統文化）×ＴＯＫＹＯ２０２０（オリンピック・パラリンピック）でデザインを考える。

例ＴＯＫＹＯ２０２０公式エンブレム「組市松紋」
和の要素・・・・江戸時代に広まった「市松模様」というチェッカーデザインと日本の伝統色である藍を使っている。
TOKYO２０２０の要素・・・・構成している異なる形の四角形は多様性を表している。同じ種類の四角で２つのエンブレムを作ったことでスポーツを通して平等につながることを示している。

② タンブラーを取り扱う場所は競技場に開設されている飲食店（カフェ）やグッズショップと仮想し、購入対象者を想定する。
③ オリンピック・パラリンピックマークや、大会エンブレム・マスコットはそのまま使わない。
④ 色画用紙・マスキングテープ・千代紙・和紙・水挽などを使い、切ったり貼ったりして制作を行う。材料は学校で用意されたものを使う。自分で用意しても構わない。

２．情報収集をしてよりよいアイデアを生み出す準備をしよう

※それぞれにまつわる情報をキーワードや絵、写真などで可視化しよう。

※集めた情報の中からデザインに生かせるものを選び、赤で〇をつけよう。

ＴＯＫＹＯ２０２０　オリパラ	例オリンピック・・・近代オリンピックは１８９６年にスタート　古代ギリシャ発祥
和　日本文化	例市松模様・・・石畳の形からできた模様　歌舞伎役者佐野川市松がその柄着たためその名に

＜振り返り＞

日付	目標	振り返り（努力・工夫したこと）	
５／	よりよいアイデアを引き出す情報を集め、デザインに活かせるものを見つける。		